

TEAC

第67期 中間報告書

2014年4月1日～2014年9月30日



ティアック株式会社

証券コード：6803



株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2014年9月30日をもって、第67期（2014年4月1日から2015年3月31日まで）の中間期を終了いたしましたので、ここに当社グループの事業の概況につきましてご報告申し上げます。



代表取締役社長
英 裕治
Hanabusa Yuji

当中間期の概況

当中間連結会計期間のわが国経済は、緩やかな回復基調が続いているものの、消費税率引上げ後の国内景気の持ち直しは鈍いものとなっております。一方で、世界経済は、米国の金融緩和の縮小による影響や、欧州政府債務問題の対応、また、新興国経済の先行きなどに注意が必要ですが、全体的には緩やかに回復している状況であります。

このような状況の中で当社グループは、事業の選択と集中に向け、国内のストレージデバイス事業の

譲渡を行いました。音響機器事業では、オンキヨー株式会社及び Gibson Brands, Inc. との業務提携による新たなビジネスの創出を目指し、また、情報機器事業では、当社のコア技術に基づいた事業カテゴリーでの成長を目指しております。

当中間連結会計期間におきましては、消費増税の影響により景気の持ち直しが遅れ、また、前期末に通話録音機器（ボイスロギング事業）を、7月末には国内のストレージデバイス事業を譲渡したことなどにより、売上高は前年同期と比較して減少いたしました。

一方、販売費及び一般管理費は前期に行った米国販社の構造改革により削減されましたが、円安による仕入コストの上昇もあり、前年同期と比較して、営業損失・経常損失ともに増加いたしました。

なお、ストレージデバイス事業の譲渡は当中間連結会計期間に完了しており、譲渡に伴う損益につきましては、一部損失を売上原価に計上のうえ、すでに財務諸表に反映済みであります。

この結果、当社グループの当中間連結会計期間における売上高は89億7百万円（前年同期比9.0%減）、営業損失は8億4百万円（前年同期営業損失5億9千4百万円）、経常損失は10億9百万円（前年同期経常損失8億8千1百万円）となりました。また、中間純損失は10億8千4百万円（前年同期中間純損失13億8百万円）と、赤字幅は縮小いたしました。

通期の業績見通しについて

当中間連結会計期間及び前年同期とも営業損失を計上しておりますが、当社グループの業績の特性は、季節要因により、売上、利益とも第4四半期に集中する傾向があります。

なお、2015年3月期の連結売上高は215億円、営業利益6億円、経常利益2億5千万円、当期純利益1億円を予想しております。

全グループ社員一丸となって通期の業績見通しの達成に向け邁進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2014年12月

連結業績ハイライト

		第64期 2012年3月期	第65期 2013年3月期	第66期 2014年3月期	第66期(中間) 2013年9月期	第67期(当中間) 2014年9月期
売上高	(百万円)	26,696	22,236	22,444	9,788	8,907
営業利益	(百万円)	338	693	395	△ 594	△ 804
経常利益	(百万円)	19	351	30	△ 881	△ 1,009
当期純利益	(百万円)	89	△ 323	△ 248	△ 1,308	△ 1,084
1株当たり当期純利益	(円)	0.31	△ 1.12	△ 0.86	△ 4.54	△ 3.76
総資産	(百万円)	19,637	19,619	17,582	17,683	15,791
純資産	(百万円)	3,790	4,243	3,678	3,087	3,491

音響機器事業

57.8%

売上高 5,151 百万円
(前年同期比 5.5%減)

営業損失 △ 801 百万円
(前年同期営業損失△ 520 百万円)



スーパーオーディオ CD プレーヤー

ESOTERIC

高級AV機器（ESOTERICブランド）は、スーパーオーディオCDプレーヤーの新製品が好調に推移したこと、フラッグシップのグランディオソシリーズがアジア市場、特に中国において販売が好調に推移したことにより、前年同期を上回る結果となりました。

一般AV機器（TEACブランド）は、PCオーディオ、一体型レコードプレーヤーシステムが堅調に推移したものの、全体としては、国内の販売は消費増税の影響が続き減収となりました。

音楽制作オーディオ機器（TASCAMブランド）は、米国ではリニアPCMレコーダーとCDプレーヤーを中心とした設備機器が堅調な販売となりましたが、その他の海外市場での販売は低調に終わりました。また、国内では、設備市場での販売は堅調に推移したものの、楽器市場向け製品、為替の影響で値上げを余儀なくされた輸入製品の販売が低調となりました。

この結果、音響機器事業全体では、消費増税の影響などにより、前年同期と比較して減収、営業損失となりました。

なお、Gibson Brands, Inc.との提携においては、米国における販売体制の統合及びGibson Brands, Inc.の強みであるグローバルマーケティングの有効利用を当社製品においても開始しました。また、第3四半期には新製品が販売される予定であり、業績に貢献する見込みであります。

- 高級 AV 機器
- 一般 AV 機器
- 音楽制作オーディオ機器

オリジナルブランド

ESOTERIC

TEAC

TASCAM

売上高
8,907

その他事業

売上高 668 百万円
(前年同期比 14.6%減)

営業利益 17 百万円
(前年同期比 57.5%減)

情報機器事業

34.7%



ワイドバンドデータレコーダー

売上高 3,087 百万円
(前年同期比 13.1%減)

営業損失 △ 21 百万円
(前年同期営業損失△ 115 百万円)

- 航空機搭載用記録再生機器
- 医用画像記録機器
- 計測機器
トランスデューサー
データレコーダー
- ソリューションビジネス
- 介護支援個別ケアシステム
- 民生用 及び
産業用製品向けドライブ

オリジナルブランド

TEAC

航空機搭載記録再生機器は、保守パーツは堅調に推移したものの、製品に関しては前年の需要増が一段落したことから減収となりました。

計測機器はデータレコーダー(WX-7000)が、好調な鉄道、重工業分野に加え自動車関連への販売でも実績を上げ、大きく売上を伸ばしました。また、センサーに関しては半導体製造装置向けの販売が復調を見せ好調に推移しました。

医用画像記録機器はOEM販売の落ち込みが大きかったこと、新製品の手術画像用レコーダーの発売が第3四半期にずれこんだことにより減収となりましたが、ソリューションビジネスはサーバーの仮想化ビジネスとITサービス販売が好調に推移しました。

ストレージデバイス事業は事業譲渡により売上高が減少しました。

この結果、情報機器事業全体では、ストレージデバイス、通話録音機器の事業譲渡などの「事業の選択と集中」により減収となりましたが、事業の効率化、コア事業が好調に推移したことにより、営業損失は減少しました。

百万円

前年同期比
9.0%減

7.5%

● EMS 事業

中間連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当中間期 2014年9月30日現在	前期 2014年3月31日現在
■ 資産の部		
流動資産	11,981	13,092
現金及び預金	3,412	3,180
受取手形及び売掛金	3,494	5,507
商品及び製品	2,533	2,635
原材料及び貯蔵品	1,367	1,165
繰延税金資産	25	34
その他	1,207	635
貸倒引当金	△ 58	△ 66
固定資産	3,809	4,490
有形固定資産	2,565	2,504
無形固定資産	633	551
投資その他の資産	610	1,434
資産合計	15,791	17,582

	当中間期 2014年9月30日現在	前期 2014年3月31日現在
■ 負債の部		
流動負債	5,230	5,968
支払手形及び買掛金	1,887	1,461
短期借入金	1,200	2,200
1年内返済予定の長期借入金	83	83
賞与引当金	320	242
製品保証引当金	131	146
返品調整引当金	66	97
その他	1,541	1,735
固定負債	7,069	7,935
負債合計	12,300	13,904
■ 純資産の部		
株主資本	7,364	7,908
資本金	6,000	6,000
資本剰余金	306	306
利益剰余金	1,174	1,711
自己株式	△ 117	△ 109
その他の包括利益累計額	△ 3,927	△ 4,291
少数株主持分	54	61
純資産合計	3,491	3,678
負債及び純資産合計	15,791	17,582

Point 1 中間連結貸借対照表

＜総資産＞ 売掛金の回収及び事業譲渡等に伴う、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローの増加により、借入金の返済を行い有利子負債を大幅に減少し、総資産を圧縮しました。

＜純資産＞ 退職給付会計基準の改正に伴う利益剰余金の増加、円安に伴う為替換算調整勘定の増加がありましたが、中間純損失の計上による利益剰余金の減少などにより、前期末に比べ187百万円減少しました。

Point 2 中間連結損益計算書

＜営業利益・経常利益＞

前期に行った米国販社の構造改革により販売費及び一般管理費は削減されましたが、円安による仕入コストの上昇などにより、営業損失・経常損失ともに前年同期に比べ増加しました。

Point 3 中間連結キャッシュ・フロー計算書

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

主な内訳は、プラス要因として回収に伴う売上債権の減少額2,062百万円、マイナス要因としては税金等調整前中間純損失1,055百万円、たな卸資産の増加額244百万円であります。

中間連結損益計算書 (要約)

(単位: 百万円)

	当中間期	前中間期
	2014年4月1日～ 2014年9月30日	2013年4月1日～ 2013年9月30日
売上高	8,907	9,788
売上原価	5,560	5,830
売上総利益	3,346	3,958
販売費及び一般管理費	4,151	4,553
営業損失 (△)	△ 804	△ 594
営業外収益	52	94
営業外費用	257	381
経常損失 (△)	△ 1,009	△ 881
特別利益	98	34
特別損失	144	302
税金等調整前中間純損失 (△)	△ 1,055	△ 1,149
法人税、住民税及び事業税	25	53
過年度法人税等	2	10
法人税等調整額	6	102
少数株主損益調整前 中間純損失 (△)	△ 1,090	△ 1,315
少数株主損失 (△)	△ 6	△ 7
中間純損失 (△)	△ 1,084	△ 1,308

中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位: 百万円)

	当中間期	前中間期
	2014年4月1日～ 2014年9月30日	2013年4月1日～ 2013年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	731	△ 119
投資活動による キャッシュ・フロー	433	629
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,109	△ 604
現金及び現金同等物に 係る換算差額	176	40
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	231	△ 54
現金及び現金同等物 期首残高	3,175	3,608
現金及び現金同等物 中間期末残高	3,406	3,553

中間連結株主資本等変動計算書 (2014年4月1日～2014年9月30日)

(単位: 百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数 株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る調整 累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	6,000	306	1,711	△ 109	7,908	39	△ 3,468	△ 862	△ 4,291	61	3,678
会計方針の変更による累積的影響額			547		547						547
会計方針の変更を反映した当期首残高	6,000	306	2,258	△ 109	8,456	39	△ 3,468	△ 862	△ 4,291	61	4,226
中間連結会計期間中の変動額											
中間純損失 (△)			△ 1,084		△ 1,084						△ 1,084
自己株式の取得				△ 7	△ 7						△ 7
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額 (純額)						△ 24	340	46	363	△ 6	356
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△ 1,084	△ 7	△ 1,091	△ 24	340	46	363	△ 6	△ 734
当中間期末残高	6,000	306	1,174	△ 117	7,364	15	△ 3,128	△ 815	△ 3,927	54	3,491

Gibson Brands Showroom TOKYO



3社のコラボレーションにより、「弾いて、録って、聴く」ショールームを東京八重洲にオープン

Gibson Brands, Inc.、オンキヨー株式会社と3社のコラボレーションによる世界初となる一般向けショールーム「Gibson Brands Showroom TOKYO」を東京八重洲に2014年7月にオープンいたしました。

3社の強みを活かしたこのショールームでは、ギブソンのギターで「弾いて」、当社の録音技術で「録って」、オンキヨーのオーディオで「聴く」という、他にはないプレミアムな「音と音楽」の体験を提供いたします。

プロフェッショナルなファンからカジュアルなユーザーまで幅広い方々がクオリティの高い音楽ライフスタイルを楽しむことができる空間です。また、ゲストアーティストを迎えた各種イベントも開催していますので、お気軽にお立ち寄りください。

Gibson Brands Showroom TOKYO

東京都中央区八重洲 2-3-12 オンキヨー八重洲ビル 1F・2F

(JR 東京駅 / 地下鉄銀座線京橋駅より徒歩約 5 分)

TEL : 03-6265-1148

[営業時間] 12 : 00 - 19 : 00

[定休日] 日曜・月曜・祝日・指定休業日

※イベント等の状況により定休日等が変更になる場合があります。

<http://www.jp.onkyo.com/gibsonsr/>



新製品

TEAC

医用画像の録画・管理に今までにない使いやすさを

主に手術室で使用される内視鏡や術野カメラなどの映像機器から高解像度画像（動画・静止画）を記録する医療現場専用のビデオレコーダー『UR-4MD』を2014年10月より発売開始しました。鮮明な高解像度での記録はもちろんのこと、容易な接続・設定と直感的な操作性を兼ね備え、医療現場での使いやすさに特化した設計になっています。

1992年より医用画像レコーダーの販売を開始し、以来、医用画像業界の発展のため記録映像の用途に合わせた使いやすさを意識した製品の開発を続けており、これまで培った技術とノウハウを活かし、日本国内のみならず海外の市場へ向けても新製品を展開していきます。



メディカルビデオレコーダー 「UR-4MD」

新製品

TASCAM

新筐体のUSBオーディオ/MIDIインターフェース3モデルを新発売

外部デザイナーを起用し、創造力を刺激する先鋭的なデザインと実用的な設計のUSBオーディオ/MIDIインターフェース3モデルをTASCAMブランドで2014年9月より順次発売開始しました。

3モデルはいずれもiPadなどのiOSデバイス接続にも対応しており、『US-2×2』は2入力2出力、

『US-4×4』は4入力4出力を備え、音楽制作初心者から、ボーカル録音、ピアノやアコースティックギターのスtereo録音まで幅広く活用いただけます。また、『US-16×08』は16入力8出力で、バンド録音やドラム録音に適しています。



USBオーディオ/MIDIインターフェース 「US-2×2」「US-4×4」「US-16×08」

■ 会社の概要

商号 ティアック株式会社 (TEAC CORPORATION)
 本社 〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目 47 番地
 設立 1953年8月26日
 資本金 60億円
 事業年度 4月1日～翌年3月31日
 代表者 代表取締役社長 英 裕治
 従業員数 単体 297名 連結 1,004名

国内拠点

ティアック株式会社

本社 [東京都]

EMC センター [埼玉県]

大阪営業所 [大阪府]

名古屋営業所 [三重県]

エソテリック株式会社 [東京都]

ティアック マニュファクチャリング ソリューションズ株式会社 [東京都]

MTS 株式会社 [埼玉県]

ティアック オンキヨー ソリューションズ株式会社 [東京都]

デジタル・アコースティック株式会社 [大阪府] ※持分法適用関連会社

海外拠点

TEAC AMERICA, INC. [米国]

TEAC MEXICO, S.A. de C.V. [メキシコ]

TEAC EUROPE GmbH [ドイツ]

TEAC UK LTD. [英国]

TAIWAN TEAC CORPORATION [台湾]

TEAC SALES & TRADING (ShenZhen) CO., LTD. [中国]

TEAC AUDIO (CHINA) CO., LTD. [香港]

DONGGUAN TEAC ELECTRONICS CO., LTD. [中国]

■ 役員

代表取締役社長 英 裕治
 取締役 野村 佳秀
 取締役 Henry E. Juskiewicz
 取締役 David Berryman
 取締役 Solomon Picciotto
 常勤監査役 牧野 信明
 監査役 原 琢己
 監査役 坂口 洋二

当社ホームページのご案内

当社は、ニュースリリースや決算発表資料などを、自社ホームページに掲載しています。

➡ 投資家向け情報



<http://www.teac.co.jp/>

株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	289,317,134株
株主数	14,761名

大株主 (上位10名)

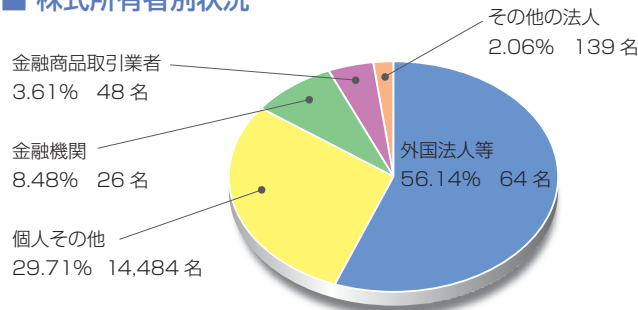
株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
Gibson Holdings, Inc.	157,447	54.42
日本証券金融株式会社	6,703	2.32
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,433	1.19
オンキヨー株式会社	2,894	1.00
森兼 満	2,740	0.95
株式会社SB証券	2,347	0.81
東京海上日動火災保険株式会社	2,007	0.69
明治安田生命保険相互会社	1,541	0.53
ティアック取引先持株会	1,540	0.53
バンクオブニューヨーク メロン エスエー エヌ ブイフォービーエヌワイジーシーエムクラ イアントアカウントイーエルエスシービー	1,450	0.50

(注) 出資比率は、小数点第3位を四捨五入により表示しています。

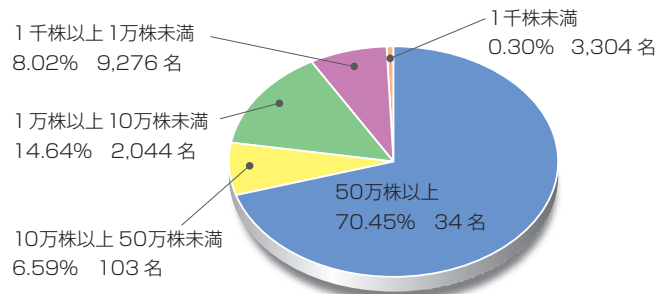
株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日
単元株式数	1,000株
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
公告の方法	電子公告により行う。
公告掲載URL	http://www.teac.co.jp/about/jp/koukoku.html (ただし、やむを得ない事由により、電子公告による ことができない場合は、日本経済新聞に公告します。)

株式所有者別状況



株式所有数別状況



【株式事務に関するご案内】

1. 各種お手続きのお問合せ窓口について

株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きについて

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。

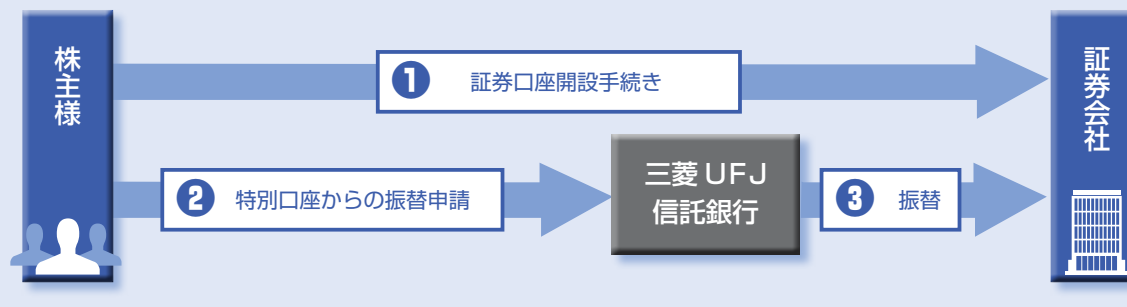
特別口座に株式をご所有の株主様へ ～ 特別口座からの振替手続きのご案内 ～

「特別口座」とは、2009年1月の株券電子化に伴い、証券会社等を通じてほふり（証券保管振替機構）に株券を預託されなかった株主様の権利を保全するために、当社が三菱UFJ信託銀行に開設した口座のことです。

この「特別口座」は、あくまで暫定的な口座であり、売買の際には証券会社の取引口座に振り替えていただく必要がありますので、お早めに「特別口座」から証券会社の口座への振り替えをお願いいたします。

「特別口座」から証券会社の口座への振替方法

- 1 証券会社に株主様ご名義の口座を開設してください。 ※すでに証券口座をお持ちの場合は不要です。
- 2 三菱UFJ信託銀行に振替申請をお申し出ください。（TEL 0120-232-711 <通話料無料>）
- 3 三菱UFJ信託銀行が振替処理を行い、振替が完了します。



- 「特別口座」にある単元未満株式（1,000株に満たない株式）については、買取請求により当社に売却していただくことができます。ご希望の株主様は、三菱UFJ信託銀行（TEL 0120-232-711 <通話料無料>）にお問合せください。

- 仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
- 製品の色は、撮影や印刷の関係で実際の色と異なって見えることがあります。
- 記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合一丁目47番地
TEL 042-356-9100（代表）
ホームページアドレス <http://www.teac.co.jp/>

